



Rotary Club of Suita Esaka Club Weekly Bulletin



吹田江坂ロータリークラブ 創立年月日/1990年2月27日
事務所/〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1丁目23番101号大同生命江坂ビル12F
TEL(06)6821-0222 FAX(06)6821-0206 E-mail:esaka-rc@lake.ocn.ne.jp http://WWW.suitaesaka-rc.net/
例会場/新大阪江坂東急イン3F TEL(06)6338-0109 例会日/毎週火曜日 12:30~13:30
2014~2015年度 会長:金馬隆仁 幹事:田中 弘 会報委員長:飛田昭男

◇ 2014年12月2日 第1157回例会 No.1156 ◇

本日の例会

—千里RC2,000回記念例会—

今週の歌

「君が代・奉仕の理想・四つのテスト」

講演 「みんな仲良く」

公益財団法人ロータリー日本財団理事長

元RI理事 千 玄室 様

次回の例会(12月7日)

—“2014”クリスマス家族会—

前回【11月25日】例会記録

◆会長の時間

金馬会長

本日の会長の時間は第九交響曲日本初演の経緯についてお話しさせていただきます。

話は第一次世界大戦に遡ります。日本は第一次世界大戦で中国にある青島でドイツ軍と戦い、短期間ではあったが激戦を制した。負けたドイツ軍は武装解除され日本に設けられた12か所の俘虜収容所に収容され徳島がその一つだった。囚われの身、俘虜と聞けば、自由の束縛や厳しい労働環境をイメージしがちだが、1907年に日本が調印した「第二ハーグ条約」に基づき「俘虜は人道的に扱う」と国際条約で約束がなされていた。食事、衣服などはその国の軍隊と同等であることや、俘虜に対する俸給の取り決めまでが明記されていた。とは言うものの、第一次世界大戦最中の食糧難や鉄格子で囲まれた収容所からの脱走事件もあるため、俘虜達の不自由の中の自由は収容所所長の人格に委ねられていた。

1917年から終戦までの4年間、44歳の若さで坂東俘虜収容所の所長を務めた大日本帝国陸軍中佐である松江豊寿(まつえ とよひさ)の人格は素晴らしかった。松江はドイツ人の俘虜達に人道に基づいた待遇で彼らに接し、可能な限り自由な様々な活動を許した。1920年4月、第一次大戦終了に伴い板東俘虜収容所は閉鎖されたが俘虜たちは解放

された後もここで受けた温かい扱いを忘れず「世界のどこに松江のような素晴らしい俘虜収容所長がいたのだろうか」と語るほどだった。松江の行動は武士道に起源すると言われている。収容所で俘虜が発行していた新聞に武士道について紹介されている。

「第一原理は自己の命を軽んじ、自己の行いに責任を持ち、自制心を鍛錬し、恥を知ることである。決断に際しては熟考し、臆病でないこと。主人と祖国のためには進んで命を投げ出すこと。弱者と貧者に対して好意を持ち、親切であること。」

また「普通の考えではどうにもならない事を別の方法で考える」といったポジティブな所長方針を強く唱えていた。例えば予算難の折、俘虜から食事の改善要求があれば、木を伐採し薪代を節約するとともに自給自足を実現したり、外出が困難な俘虜が「海で泳ぎたい」と要望すれば、衛生上足を洗うとの軍に対する申請で、海水浴に連れ出したり地元中学校に

◆出席報告

木元委員

【11月25日】

来客 0名
出席会員 31名 (内出席規定免除 6名)
在籍会員 34名 (内出席規定免除 8名)
出席率 96.88%
10月28日のMUを含む出席率 96.88%

関西大学RAC例会 12月度予定

12月8日(月)Cグループ

八橋、赤尾、芳賀、今村、庄瀬、西本

会場：関西大学千里山キャンパス

中央体育館 図書資料室

時間：18:50~19:50

音楽の先生として俘虜の派遣も行った。こんな松江所長の愛情ある管理体制と、ドイツ人の誇り高い文化的な国民性、積極性がマッチして所内で様々な活動が展開された。

文化活動として週に2回講演会が開かれた。語学、地学、生物学、ドイツ文学など講演は数百回にも及んだ。ボーナー二等海兵は「ドイツの歴史と芸術」について30回以上の講演を担当し、第九演奏会に先立って、その成り立ちと意義についての講演も行っている。後に氏は大阪外国語大学で教鞭をとった。所内新聞「ディ・バラック」の発行は印刷、デザイン、構成の技術を持つ兵士が担当し、初年度で35万枚、2年目で55万枚、計算すると毎日ほぼ1500枚が手刷りで印刷されたことになる。

スポーツ活動ではスポーツ委員会が計画を練り、テニス、サッカー、ホッケー、体操、レスリング、ボクシングの練習場、ビリヤードやボウリング場までが作られた。

食文化としては製パン工場、製菓工場が設立され、市内在住の藤田只之助氏は所内でガーベラー等海兵より技術を学んだ。後にパンとケーキの店「独逸軒」(どくいっけん)を開き沢山の弟子を育てている。酪農技術を生かしたチーズ、バターの製造、ソーセージやハム、ベーコンの加工所も所内に設立し、地元日本人にもノウハウを提供した。

20世紀初めの20年間、物理、化学、医学の部門でいくつものノーベル賞を受賞したことからも判るとおり当時ドイツの化学、技術は素晴らしい発展を遂げていた。日本政府もそれらを積極的に学ぶよう推奨していた。地域の人達と俘虜との交流や技術指導も盛んに行われ養鶏・養豚・野菜栽培から建築・設計まで広い分野で交流が行われたと言う。

ボランティア活動では周辺地域に10か所の橋を建設し今でもドイツ橋の名称で残っていて今では国の有形文化財に登録されている。

俘虜の職業は様々であるが文化的な趣味も多彩であった。特に芸術関係にはたけていて入所まもなくオーケストラと合唱団が編成されていた。楽器集めは楽ではなかったが、個人所有の楽器は没収を免れた。戦場に楽器を持参しているドイツ人の文化意

識の高さも驚きだ。リーダーで指揮を務めたハイゼン氏はもともとドイツ軍の軍楽隊長であった。

オーケストラのメンバーは立ち上げ時45名で2年半の間に45回のコンサートを開催している。

1918年6月1日、日本初のベートーヴェン第九を演奏したのはこのメンバーで、縦35m、横7.4mの講堂で開催された。男性ばかりの合唱団でアルトとソプラノの女性パートは男性用に書き直された。

鳴門市ではこれを記念して毎年6月の1週目に第九コンサートを開催し全国から沢山の愛好家が参加しています。1000人のドイツ人俘虜の活動はどこかロータリー活動に似た活動のように思えます。

それぞれの職務能力を生かして地域と社会に貢献する。そこには奉仕の精神と人々の交流があり感動がある。

皆様も是非機会を作って第九発祥の地、鳴門を訪問してみてください。

◆幹事報告

田中(弘)幹事

◎12月2日(火)移動例会12:30~14:00於：千里阪急ホテル(千里RC2,000回記念例会)次第をBOXに入れております。よろしくお願ひ致します。

◎泉ガバナー公式訪問日は、平成27年2月3日(火)になりましたのでよろしくお願いいたします。

◎本日例会終了後、12月度定例理事会を例会場にて開催しますので理事会メンバーの皆様よろしくお願ひ致します。

◆ニコニコ箱

芳賀会員 家族会、欠席すみません。

田中(茂)会員 会員増強フォーラムよろしく。

本日分15,000円 累計564,000円

◆親睦活動委員会

橋本委員長

“2014”クリスマス家族会のご案内

- 日時：12月7日(日)12:00~15:30
- 場所：新大阪江坂東急イン ボールルーム
今年のパフォーマンスは、クリスマスにふさわしく優雅なハンドベルで大人のクリスマスの雰囲気、後半はお子様に楽しんで頂けるようバルーンアートで、今年流行りの「アナと雪の女王」や「妖怪ウォッチ」のバルーンを始め沢山の風船を全てのお子様にお配りして、喜んで頂けるよう企画致しました。多数のご参加をお待ち致しております。

卓 話

「私の仕事」(11月18日・第1155回)

森 優 会 員

私は30歳の時にプラスチック射出成型機械の製造販売のシンワ精機株式会社を、35歳の時に賃貸オフィスビルを経営する株式会社美貴ビルディングを設立、その後、シンワ精機は精密機械部品の製造に変わり、美貴ビルディングは新たに奈良市学園前駅近くに店舗付き賃貸マンションを建設いたしました。

以前は、殆どの時間をシンワ精機の業務に費やしていましたが、数年前会長職に移り今は週2回ほど江坂美貴ビルディング本社の事務所に来しております。

事務所での仕事は、ロータリーへの参加を含め、日々の収支管理、新規テナント、入居者の面接、建物の維持管理、来客の対応に殆どの時間を費やします。

振り返りますとバブル崩壊後の長く続いたデフレの間に賃料も下がり、建設当時に描いた経営目標は未だ達成出来ずじまいで、それぞれの賃貸物件も20年から30年を経過し、設備等の部品の廃止等で機器の総入れ替えでメンテナンス費用が増えています。

一方シンワ精機ですが、アベノミクスと円安で今年始めから仕事量は増えております。慢性的な中小企業の人手不足に対応するため、5年ほど前から当社でも外国人労働者を採用しています。当初は中国人から始めた採用は今年全てフィリピンからの採用に移りました。約4分の1の生産が外国人労働者に支えられております。

以上、私の仕事とその現状を簡単に話させていただきました。今年、このロータリーに加えていただき皆様との人脈を築き、私の仕事をどうしてロータリーの基本の職業奉仕に邁進していきたいと思っております。

クラブフォーラム

「会員増強について」(11月25日・第1156回)

会員増強委員長 田中 茂晴 会員

会員増強について自由、活達なディスカッションをお願いします。

- 例)・例会の食事に招待し、ロータリーの楽しさをお話する。
- ・女性会員を増やす。
 - ・周りで見落としていないか再度確認して下さい。
 - ・未充填職業をうめる。
 - ・退会防止対策

入会者を一年間指導する。

新会員だけの食事会をする。

- ・会員候補者名をご記入ください。

()

()

以上テーブルリーダーがまとめて下さい。



ロータリー家族月間にあたって

横糸を紡ごう 未来のために!!

RI第2660地区 泉 博朗 ガバナー

ロータリー家族月間

12月はロータリー家族月間であります。ロータリアンの実際の家族以外に、ロータリー財団学友、GSE アルムニ会、ローターアクト、インターアクト、ローテックス、ライラ、青少年交換学生、米山奨学生、米山学友等ロータリープログラムに係わった方々もロータリーファミリーと位置付けております。つまり、ロータリアンのみならず、ロータリーファミリーと共に、ロータリー活動を行うことを強調するということでもあります。これは、ロータリーファミリーとロータリアンが共通の意識を持つということでもあります。日ごろは、それぞれの活動を通じて奉仕活動やプログラムを実施しているわけですが、それぞれの領域をこえて、共通の意識を持つ事を強調しようということでもあります。

ロータリーの活動、ロータリーの組織、ロータリークラブは大変強固なものであります。その強固な存在が横糸でつながれば、鉄壁のものになれるわけであり。その行事が、地区大会や各IMであります。

また本年度はゲイリーホアン RI 会長の推奨事業でありますロータリーデーを2015年5月5日に中之島公会堂付近で、ロータリーファミリーの皆様と、献血、危険ドラッグ撲滅、国際交流など、クラブの枠を越えた「ロータリーフェスティバル」を行います。多くのロータリーファミリーが集うことを願っております。もちろん、決して12月の家族月間だけ意識すればよいという事ではなく、常にそのことは意識をいたさなければなりません。

青少年に対しては、家族の様に、常に意識をもち、私たちの思いを伝えていかなければなりません。皆様の情熱をロータリーファミリーの方々に伝えていただきたいのです。共に手を取り合って進んでいかなければなりません。「修身齐家治国平天下」という言葉があります。ロータリーファミリーと共に大義を成就しましょう。いまこそ横糸を紡ぎ、共に手をつなぎ、友垣を築き、「Light up ROTARY」を実践しようではありませんか。

(ガバナー月信12月号より)

第5回ハイキング同好会 日時：11月16日（日）場所：高野山
参加者：橋本・山本・木元・寺井・八橋・西本・岡本さん



5回目のハイキングはピークを過ぎたとはいえまだまだ、随所に紅葉の残る世界遺産の高野山へ行って参りました。

幸い絶好の秋晴れに恵まれ、秋の澄み切った空気のお蔭でろくろ峠からは遙か遠くの山並みもくっきり見る事が出来、最高の眺望の元、お昼ご飯を頂きました。

今回は山歩きの途中に大門や女人道を通り、奥の院や金剛峯寺も見参りました。

最後は名物のごま豆腐を買って約4時間半のハイキングを楽しみ下山致しました。

皆様お疲れ様でした。前回より少し間隔が空いており皆様の運動不足を改めて実感致しました。

間を開けずに次回を計画したいと思いますのでよろしくお願い致します。（西本）

